

# 1 旅行業法及びこれに基づく命令

以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 次の記述から、法第1条（目的）で定められているものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業を営む者についての営業保証金制度の実施
- b. 旅行業等を営む者の組織する団体の適正な活動の促進
- c. 旅行業等を営む者の適正な利潤の確保
- d. 旅行者の利便の増進

ア. a, c                      イ. b, d                      ウ. a, b, c                      エ. a, b, c, d

(2) 報酬を得て、次の行為を事業として行う場合、旅行業又は旅行業者代理業（以下「旅行業等」という。）の登録を要しないものはどれか。

- ア. 市町村の交流協会が、海外の姉妹都市での交流プログラムを含む海外交流ツアー（往復航空機輸送と現地ホテル宿泊を含む。）を販売する行為
- イ. 航空会社が、系列の旅行業者の実施する企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）を代理して販売する行為
- ウ. 観光タクシー会社が、自ら所有するタクシーを使い、他人が経営するテーマパークに半日入場する日帰り旅行を販売する行為
- エ. 結婚式場業者が、挙式と4泊6日の海外旅行をセットにした商品を販売する行為

(3) 「旅行業等」の登録に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者代理業の登録の有効期間は、登録の日から起算して7年である。
- イ. 旅行業の更新登録の申請は、有効期間の満了の日の1月前までにしなければならない。
- ウ. 旅行業者が更新登録の申請を行った場合で、有効期間満了の日までに登録行政庁から登録した旨又は登録を拒否する旨の通知がない場合、当該通知があるまでの間は、当該申請に係る登録は、なおその効力を有する。
- エ. 旅行業者代理業の新規登録の申請をしようとする者は、所属旅行業者の主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に申請をしなければならない。

(4) 登録業務範囲に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 第1種旅行業者は、その営業所の旅行業務取扱管理者が国内旅行業務取扱管理者試験に合格した者であっても、本邦外の企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するもの以外のものに限る。）であれば取り扱うことができる。
- イ. 第2種旅行業者は、訪日外国人旅行者を対象とした本邦内の企画旅行を実施することができる。
- ウ. 第3種旅行業者が観光庁長官の定める区域内において企画旅行を実施するためには、観光庁長官にその旨の届出を行わなければならない。
- エ. 第2種旅行業者は、総合旅行業務取扱管理者を選任している営業所においては、本邦外の企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）を実施することができる。

(5) 次の記述のうち、「旅行業等」の登録の拒否事由に該当するものはどれか。

- ア. 申請の7年前に旅行業法の規定に違反して罰金の刑に処せられた者が、旅行業の新規登録の申請を行ったもの
- イ. 旅行業の登録の申請者が法人であって、その役員のうち登録申請の1年前まで破産者で復権を得ていなかった者がいるもの
- ウ. 旅行業の登録の申請者が、同じ建物内にある2つの営業所に同じ者をそれぞれの旅行業務取扱管理者として選任するもの
- エ. 4年前に登録の有効期間が満了したことに伴い旅行業の登録を抹消された法人が、旅行業者代理業の新規登録の申請を行ったもの

(6) 変更登録等に関する次の記述うち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者等は、営業所の旅行業務取扱管理者に変更があったときは、所定の期間内に登録行政庁に登録事項の変更の届出をしなければならない。
- イ. 第2種旅行業者が法人でその代表者に変更があったときは、その主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に変更登録の申請をしなければならない。
- ウ. 第3種旅行業者がその主たる営業所の所在地を変更したときは、所定の期間内に変更後の主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に登録事項の変更の届出をしなければならない。
- エ. 旅行業者代理業者が所属旅行業者を変更するときは、その主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に変更登録の申請をしなければならない。

(7) 営業保証金制度に関する次の記述から、正しいものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者の営業保証金の額は、前事業年度における旅行業務に関する旅行者との取引額に応じ、業務の範囲の別ごとに国土交通省令で定めるところにより算定した額である。
- b. 旅行業者は、毎事業年度終了後100日以内に、その事業年度における旅行業務に関する旅行者との取引の額を登録行政庁に報告しなければならない。
- c. 旅行業者は、毎事業年度終了後にその供託している営業保証金の額が所定の額に不足することとなるときは、その終了の日の翌日から100日以内にその不足額を追加して供託しなければならない。
- d. 旅行業者は、営業保証金を供託し、その旨を登録行政庁に届出をした後でなければ、その事業を開始してはならない。

ア. a, c                      イ. b, d                      ウ. a, b, c                      エ. a, b, c, d

(8) 旅行業務取扱管理者に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業務取扱管理者試験に合格し、法第6条第1項第1号から第5号のいずれにも該当しない者で、かつ、他の営業所の旅行業務取扱管理者となっていない者は、旅行業務に従事した経験がなくても、営業所の旅行業務取扱管理者となることができる。
- イ. 旅行業者代理業者は、所属旅行業者が締結した受託契約で委託旅行業者の実施する本邦外の企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）に係る受託旅行業者代理業者の営業所として定められた営業所で、委託旅行業者の実施する本邦外の企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）を取り扱う場合には、総合旅行業務取扱管理者試験に合格した者を旅行業務取扱管理者に選任しなければならない。
- ウ. 旅行業務取扱管理者は、旅行者からの請求がなければ、旅行業務取扱管理者証を提示しなくてよい。
- エ. 第1種旅行業者は、その営業所のうちに本邦外の旅行を取り扱わない営業所があっても、すべての営業所に総合旅行業務取扱管理者試験に合格した者を旅行業務取扱管理者に選任しなければならない。

(9) 次の記述から、旅行業法施行規則第10条（旅行業務取扱管理者の職務）に定められているものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 法第7条の規定による営業保証金の供託に関する事項
- b. 法第10条の規定による旅行業務に関する旅行者との取引額の報告に関する事項
- c. 法第12条の10の規定による企画旅行の円滑な実施のための措置に関する事項
- d. 旅行に関する苦情の処理に関する事項

ア. a, b                      イ. c, d                      ウ. b, c, d                      エ. a, b, c, d

(10) 旅行業務の取扱いの料金に関する法第12条の規定について、の中に入る語句の組合せで正しいものはどれか。

旅行業者は、①前に、旅行者から收受する旅行業務の取扱いの料金（②に係るものを除く。）を定め、これをその営業所において旅行者に見やすいように③なければならぬ。これを変更するときも、同様とする。

- ア. ①旅行業の登録 — ②企画旅行 — ③掲示し、又は備置か
- イ. ①旅行業の登録 — ②手配旅行 — ③掲示し
- ウ. ①事業の開始 — ②企画旅行 — ③掲示し
- エ. ①事業の開始 — ②手配旅行 — ③掲示し、又は備置か

(11) 旅行業約款に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 登録行政庁は、旅行業者の定めた旅行業約款について、旅行者の正当な利益を害するおそれがないものであるときは、それを認可しなければならない。
- イ. 企画旅行を実施する旅行業者は、旅行業者の責任について、企画旅行契約と手配旅行契約その他の企画旅行契約以外の別に応じ、明確に定めなければならない。
- ウ. 旅行業者代理業者は、所属旅行業者が標準旅行業約款と異なる旅行業約款の認可を受けている場合、自社の旅行業約款につき、標準旅行業約款と同一の内容であれば、自社の旅行業約款として定めることができる。
- エ. 保証社員でない旅行業者の旅行業約款にあつては、営業保証金を供託している供託所の所在地の変更があったときは、その変更につき登録行政庁の認可を受けなければならない。

(12) 取引条件の説明に関する次の記述から、正しいものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者等は、対価と引き換えに旅行に関するサービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付する場合であっても、旅行者に取引条件の説明書面を交付しなければならない。
- b. 旅行業者は、旅行に関する相談に応ずる場合であっても、取引条件の説明をしなければならない。
- c. 旅行業者等は、取引条件の説明書面の交付に代えて、旅行者の承諾を得て、情報通信の技術を利用する方法であつて、国土交通省令・内閣府令で定めるものにより、当該書面に記載すべき事項を提供することができる。
- d. 旅行業務の取扱いの料金に関する事項は、旅行業者等が旅行者と企画旅行契約を締結する場合の取引条件の説明事項として定められている。

- ア. a, b                      イ. a, d                      ウ. b, c                      エ. c, d

(13) 次の記述のうち、企画旅行契約を締結する場合に、旅行者に交付する取引条件の説明書面の記載事項として定められていないものはどれか。

- ア. 企画者の氏名又は名称及び住所並びに登録番号
- イ. 旅行者が旅行者等に支払うべき対価及びその収受の方法
- ウ. 旅行に参加する資格を定める場合にあつては、その旨及び当該資格
- エ. 旅程管理業務を行う者が同行しない場合にあつては、旅行地における企画者との連絡方法

(14) 外務員の証明書携帯等に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 外務員とは、勧誘員、販売員、外交員その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、旅行者等のために営業所以外の場所で旅行業務について取引を行う使用人のことで、役員は除かれる。
- イ. 外務員は、その所属する旅行者等に代わって、旅行者との旅行業務に関する取引についての裁判に関する一切の行為を行う権限を有するものとみなされている。
- ウ. 外務員は、その業務を行うにあつては、旅行者からの請求がなくても、外務員の証明書を提示しなければならない。
- エ. 旅行者代理業者の外務員の証明書は、その所属する旅行者が発行する。

(15) 企画旅行の広告に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行者等は、企画旅行に参加する旅行者を募集するため広告をするときは、企画者の氏名又は名称、旅行の目的地及び日程も表示しなければならない。
- イ. 旅行者等は、企画者以外の者の氏名又は名称を表示する場合は、文字の大きさ等に留意して、企画者の氏名又は名称の明確性を確保しなければならない。
- ウ. 旅行者等は、企画旅行の円滑な実施のための措置を講ずる旨を明確に表示すれば、そのために必要な旅程管理業務を行う者の同行の有無については、表示しなくてよい。
- エ. 旅行者等は、旅行者が旅行者に支払うべき対価が企画旅行の出発日より異なる場合において、その最低額を表示するときは、併せてその最高額を表示しなければならない。

(16) 次の記述から、誇大広告をしてはならない事項をすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行地における旅行者の安全の確保に関する事項
- b. 感染症の発生の状況その他の旅行地における衛生に関する事項
- c. 旅行中の旅行者の負担に関する事項
- d. 旅行者に対する損害の補償に関する事項

- ア. a, b, c      イ. a, c, d      ウ. b, c, d      エ. a, b, c, d



(17) 標識の掲示に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行者等は、営業所において、その営業所の別に応じ国土交通省令で定める様式の標識を、公衆に見やすいように掲示しなければならない。
- イ. 旅行者の標識には、登録番号、登録年月日、有効期間、氏名又は名称及び住所、営業所の名称及び住所、旅行業務取扱管理者の氏名、受託取扱企画旅行を記載しなければならない。
- ウ. 旅行者代理業者の標識には、所属旅行者の登録番号及び氏名又は名称も記載しなければならない。
- エ. 旅行者等以外の者は、国土交通省令で定める様式の標識又はこれに類似する標識を掲示してはならない。

(18) 企画旅行の円滑な実施のための措置に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行者は、企画旅行に関する計画に定めるサービスの旅行者への確実な提供を確保するために旅行の開始前に必要な予約その他の措置を講じなければならない。
- イ. 旅行者は、本邦内の企画旅行において、契約の締結前に旅行者に旅程管理のための措置を講じない旨を説明し、かつ、当該旅行に関する計画に定めるサービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付した場合は、旅行地において旅行に関する計画に定めるサービスの提供を受けるために必要な手続きの実施その他の措置を講じなくてよい。
- ウ. 旅行者は、本邦外の企画旅行において、旅行に関する計画に定めるサービスの内容の変更を必要とする事由が生じた場合、代替サービスの手配及び当該サービスの提供を受けるために必要な手続きの実施その他の措置を講じなければならない。
- エ. 旅行者は、本邦内の企画旅行にあっては、旅行に関する計画における2人以上の旅行者が同一の日程により行動することを要する区間における円滑な旅行の実施を確保するために必要な集合時刻、集合場所その他の事項に関する指示をしなくてよい。

(19) 旅程管理業務を行う者に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅程管理業務を行う者のうち主任の者は、法第6条第1項第1号から第5号のいずれにも該当しない者であって、登録研修機関が実施する旅程管理研修の課程を修了し、かつ、旅行の目的地を勘案して国土交通省令で定める旅程管理業務に関する実務の経験を有するものでなければならない。
- イ. 本邦内の企画旅行に同行して旅程管理業務を行う者のうち主任の者は、所定の研修の課程を修了した日の前後1年以内に1回以上又は当該研修の課程を修了した日から3年以内に3回以上の本邦内の旅行に関する旅程管理業務に従事した経験が必要である。
- ウ. 本邦外の企画旅行に参加する旅行者に同行して旅程管理業務を行う者のうち主任の者に必要な実務の経験は、本邦外の旅程管理業務に従事した経験に限られる。
- エ. 資格要件を満たす者（法第12条の11第1項の規定に適合する者）の指導による旅程管理業務に相当する実務の研修を受けた経験は、当該研修を受けた地域を目的地とする旅行に係る旅程管理業務に従事した経験とみなされる。

(20) 禁止行為に関する次の記述から、正しいものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者等は、あらかじめ旅行者の了解を得れば、その営業所に掲示した旅行業務の取扱いの料金を超えて料金を収受することができる。
- b. 旅行業者等又はその代理人、使用人その他の従業者は、旅行者に対し、旅行地において施行されている法令に違反するサービスの提供を受けることに関し便宜を供与する行為をしてはならない。
- c. 旅行業者等は、いかなる場合においても、旅行業務に関し取引をした者に対し、その取引によって生じた債務の履行を遅延させてはならない。
- d. 旅行業者等の代理人、使用人又はその他の従業者は、旅行者に対し、旅行地において特定の物品を購入することを強要する行為をしてはならない。

ア. a, b                      イ. b, d                      ウ. c, d                      エ. a, c, d

(21) 受託契約に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者は、他の旅行業者が実施する企画旅行について、当該他の旅行業者と受託契約を締結しようとするときは、当該他の旅行業者を所属旅行業者とする旅行業者代理業の登録を受けなければならない。
- イ. 第1種旅行業者は、第2種旅行業者の受託旅行業者になることはできない。
- ウ. 受託旅行業者は、その営業所において、委託旅行業者の旅行業務の取扱いの料金及び旅行業約款を旅行者に見やすいように掲示しなければならない。
- エ. 委託旅行業者及び受託旅行業者は、受託契約において、委託旅行業者を代理して企画旅行契約を締結することができる受託旅行業者又はその受託旅行業者代理業者の営業所を定めておかなければならない。

(22) 旅行業者代理業者に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者代理業者は、旅行業務に関し取引をしようとするときは、所属旅行業者の氏名又は名称及び旅行業者代理業者である旨を取引の相手方に明示しなければならない。
- イ. 旅行業者代理業の新規登録を申請する場合は、300万円以上の財産的基礎を有していなければならない。
- ウ. 登録行政庁は、旅行業者代理業者に対し、所属旅行業者を誤認させないようにするための措置をとるべきことを命ずることができる。
- エ. 所属旅行業者がその旅行業者代理業者への委託につき相当の注意をし、かつその旅行業者代理業者の行う旅行業務につき旅行者に加えた損害の発生の防止に努めたときを除き、所属旅行業者は、旅行業者代理業者が旅行者に加えた損害を賠償する責任がある。

(23) 業務改善命令に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 登録行政庁は、旅行者等に対し、旅程管理業務を行う者のうち主任の者を解任することを命ずることができる。
- イ. 登録行政庁は、旅行者等に対し、旅行業務の取扱いの料金又は企画旅行に関し旅行者から収受する対価を変更することを命ずることができる。
- ウ. 登録行政庁は、旅行者等に対し、旅行業約款の変更を命ずることができる。
- エ. 登録行政庁は、旅行者等に対し、旅行者に生じた損害を賠償するために必要な金額を担保することができる保険契約を締結することを命ずることができる。

(24) 登録の取消し等に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 登録行政庁は、旅行者等が旅行業法若しくはこの法律に基づく命令に違反したときは、登録を取り消すことができる。
- イ. 登録行政庁は、旅行者等が不正の手段により旅行業法第3条の規定に基づく登録を受けたときは、登録を取り消すことができる。
- ウ. 登録行政庁は、旅行者等が旅行業法に違反したときは、6箇月以内の期間を定めて業務の一部の停止を命ずることができるが、全部の停止は命ずることができない。
- エ. 登録行政庁は、旅行者等が登録を受けてから1年以内に事業を開始せず、又は引き続き1年以上事業を行っていないと認めるときは、登録を取り消すことができる。

(25) 旅行業協会の業務に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業協会は、旅行者及び旅行に関するサービスを提供する者からの旅行者等の取り扱った旅行業務に対する苦情の解決に関する業務を実施しなければならない。
- イ. 旅行業協会は、旅行業務の取扱いに従事する者に対する研修に関する業務を実施しなければならない。
- ウ. 旅行業協会は、旅行業務に関し社員である旅行者又は当該旅行者を所属旅行者とする旅行者代理業者と取引をした旅行者又は運送・宿泊業者等に対し、その取引によって生じた債権に関し弁済をする業務を実施しなければならない。
- エ. 旅行業協会は、旅行業務の適切な運営を確保するための旅行者等に対する指導に関する業務を実施しなければならない。



〈余 白〉

## 2 旅行業約款、運送約款及び宿泊約款

### 1. 標準旅行業約款に関する以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 募集型企画旅行契約の部「適用範囲」「用語の定義」「手配代行者」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者が旅行者との間で締結する募集型企画旅行に関する契約は約款の定めるところによる。約款に定めのない事項については、法令又は一般に確立された慣習による。
- イ. 旅行業者は旅行契約の履行に当たって、本邦外の旅行についてのみ、手配の全部又は一部を本邦外又は本邦内の他の旅行業者に代行させることができる。
- ウ. 「通信契約」とは、旅行業者が提携するクレジットカード会社のカード会員との間で電話、郵便、ファクシミリその他の通信手段による申込みを受けて締結する募集型企画旅行契約であって、旅行者が旅行業者の指定する金融機関の口座に旅行代金を振り込むことを約して締結する契約のことをいう。
- エ. 「札幌＝成田＝グアム＝成田＝札幌」の行程からなる募集型企画旅行においては、札幌・成田間は「国内旅行」として取り扱われる。

(2) 募集型企画旅行契約の部「契約の締結」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行者が、契約の申込みの際に支払った申込金は、旅行代金又は取消料の一部として取り扱われ、他に充当されることはない。
- イ. 旅行業者は、応募旅行者数が募集予定数に達したときは、契約の締結に応じないことがある。
- ウ. 募集型企画旅行契約は、通信契約による場合を除き、旅行者の契約申込みに対し、旅行業者が契約の締結を承諾し、別に定める申込金を受理した時に成立する。
- エ. 特別な配慮を必要とする旅行者から契約の申込時にその旨の申し出があったときは、旅行業者は可能な範囲内でこれに応じなければならない。

(3) 募集型企画旅行契約の部「契約書面」「確定書面」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者は、契約の締結前に、旅行者に旅行日程、旅行サービスの内容、旅行代金、その他の旅行条件及び旅行業者の責任に関する事項を記載した書面（以下「契約書面」という。）を交付しなければならない。
- イ. 旅行業者は、契約書面において、確定された旅行日程、運送若しくは宿泊機関の名称を記載できない場合には、当該契約書面において利用予定の宿泊機関及び表示上重要な運送機関の名称を限定して列挙することができる。
- ウ. 旅行業者は、確定された旅行日程、運送若しくは宿泊機関の名称を記載した書面（以下「確定書面」という。）を交付するときは、申込みのなされた日時を問わず、遅くとも旅行開始日の前日までの契約書面に記載した日までに交付しなければならない。
- エ. 旅行業者は、あらかじめ旅行者の承諾を得ることがなくても、契約書面又は確定書面の交付に代えて情報通信の技術を利用する方法により、当該書面に記載すべき事項を提供することができる。

(4) 募集型企画旅行契約の部「契約の変更」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者の関与し得ない事由が生じた場合において、旅行の安全かつ円滑な実施を図るためやむを得ないときは、旅行者にあらかじめ承諾を得て、緊急を要するときは必ず変更後に承諾を得て、旅行日程、旅行サービスの内容その他の契約の内容を変更することがある。
- イ. A市からB市への移動に際し、契約書面に記載した航空便の欠航でB市に移動できず、やむを得ずA市に宿泊することになった場合、契約内容の変更により旅行の実施に要する費用の増加が生じたときは、旅行業者が当該増加分を負担する。
- ウ. 旅行業者の関与し得ない事由が生じた場合において、宿泊予定ホテルの変更により、変更前のホテルについて取消料の支払いが生じたときは、旅行業者が当該取消料を負担する。
- エ. 航空機の機種が変わり、利用可能な座席数が不足したために、当該航空便を利用できなくなり旅行日程を変更した結果、旅行に要する費用の増加が生じたときは、当該増加分は旅行業者が負担する。

(5) 募集型企画旅行契約の部「旅行者の旅行開始前の解除権」に関する次の記述のうち、旅行者が契約の解除に当たって取消料の支払いを要するものはどれか。(いずれも取消料の支払いを要する期間における解除とする。)

- ア. 集合場所である空港に向かう運送機関に遅延が生じたため集合時刻に間に合わないことが判明し、契約を解除するとき。
- イ. 台風の影響で旅行地の運送機関が不通となり、かつ官公署から避難命令が発せられたことから、旅行の安全かつ円滑な実施が不可能となるおそれが極めて大きいとき。
- ウ. 旅行開始日前日に利用ホテルが確定書面に記載のあった「Aホテル」から「Bホテル」に変更になったとき。
- エ. 旅行業者が旅行者に対し、契約書面に定めた期日までに確定書面を交付しなかったとき。

(6) 募集型企画旅行契約の部「旅行業者の解除権等－旅行開始前の解除」に関する次の記述のうち、旅行業者が旅行開始前に契約を解除できないものはどれか。(いずれの場合も解除に係る旅行者への理由説明は行うものとする。)

- ア. 旅行者が、契約内容に関し合理的な範囲を超える負担を求めたとき。
- イ. スキーを目的とする1泊2日の国内旅行において、参加する旅行者の数が契約書面に記載した最少催行人員に達しなかったため、当該旅行を実施しない旨を旅行開始日の前日から起算してさかのぼって10日目に当たる日に旅行者に通知したとき。
- ウ. スキーを目的とする1泊2日の国内旅行において、異常気象により降雪量等の旅行実施に必要な条件が成就しないおそれが極めて大きいことから、当該旅行を実施しない旨を旅行開始日の前日から起算してさかのぼって2日目に当たる日に旅行者に通知したとき。
- エ. 旅行者が、旅行業者があらかじめ明示した参加旅行者の条件を満たしていないことが判明したとき。

(7) 募集型企画旅行契約の部「旅行業者の解除権－旅行開始後の解除」に関する次の記述から、旅行業者が旅行開始後に契約を解除することができないものをすべて選んでいるものはどれか。(いずれの場合も解除に係る旅行者への理由説明は行うものとする。)

- a. 添乗員が、旅行開始後に負傷し旅行の継続に耐えられないとき。
- b. 旅行者が、旅行開始後に負傷し旅行の継続に耐えられないとき。
- c. 旅行開始後において、一部の旅行者からの申し出により旅行業者が当該旅行者との旅行契約を解除したため、旅行を継続する旅行者の数が契約書面に記載した最少催行人員を下回ったとき。
- d. 地震の発生で利用予定の運送機関が不通となり、旅行の継続が不可能になったとき。

ア. b                      イ. a, c                      ウ. a, b, c                      エ. a, b, c, d

(8) 募集型企画旅行契約の部「旅行代金の払戻し」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。(選択肢 エ. 以外は通信契約ではないものとする。)

- ア. 旅行開始後、火山の噴火により旅行日程を短縮し、契約内容の変更に伴い旅行費用に減少が生じた場合、旅行業者は旅行が終了した日の翌日から起算して30日以内に旅行者に対し当該減少額を払戻ししなければならない。
- イ. 旅行者の数が契約書面に記載した最少催行人員に達しなかったため旅行業者が旅行開始前に契約を解除したときは、旅行業者は解除日の翌日から起算して7日以内に既に収受している旅行代金を払戻ししなければならない。
- ウ. 旅行業者の手配上の過失により、契約書面に記載した旅行日程に従った旅行の実施が不可能になったため、旅行者が旅行開始前に契約を解除した場合、旅行者が旅行業者に既に支払った旅行代金の全額の払戻しを約款の定める期日までに受けても、旅行者は旅行業者に対して損害賠償請求権を行使できる。
- エ. 通信契約を締結した場合で、旅行者に対して払い戻すべき金額が生じたときは、旅行業者はクレジットカード会社のカード会員規約に従って旅行者へ払戻ししなければならない。

(9) 募集型企画旅行契約の部「団体・グループ契約」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。(本問において、団体・グループを構成する旅行者を「構成者」という。)

- ア. 特約を結んだ場合を除き、契約責任者は、構成者の募集型企画旅行契約の締結に関する一切の代理権を有しているものとみなされる。
- イ. 契約責任者は、旅行開始日の前日から起算してさかのぼって15日目に当たる日より前に構成者の名簿を旅行業者に提出しなければならない。
- ウ. 旅行業者が、契約責任者に対して契約内容の変更につき通知をしたにもかかわらず、契約責任者が他の構成者に対し当該変更に係る通知を怠ったことによって生じた損害については、旅行業者は何ら責任を負わない。
- エ. 旅行業者は、契約責任者が団体・グループに同行しない場合、旅行開始後においては、あらかじめ契約責任者が選任した構成者を契約責任者とみなす。

(10) 募集型企画旅行契約の部「旅程管理」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅行者が旅行中旅行サービスを受けることができないおそれがあると認められるときは、募集型企画旅行契約に従った旅行サービスの提供を確実に受けられるために必要な措置を講じなければならない。
- イ. 旅行業者は、旅行の内容により添乗員その他の者を同行させて旅程管理業務その他当該募集型企画旅行に付随して旅行業者が必要と認める業務の全部又は一部を行わせることがある。
- ウ. 旅行業者は、旅行サービスの内容を変更するときは、変更後の旅行サービスが当初の旅行サービスと同様のものとなるよう努めなければならない。
- エ. 旅行者は、旅行開始後旅行終了までの間において、自由行動日の行動予定について、あらかじめ旅行業者に届け出ておかなければならない。

(11) 募集型企画旅行契約の部「旅行業者の責任」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者は、契約の履行に当たって、手配代行者の故意又は過失により旅行者に損害を与えたときは、当該手配代行者がその損害を賠償する責に任じ、旅行業者は損害賠償責任を負わない。
- イ. 旅行者が自由行動時間中に被った損害については、旅行業者の過失によるものであっても、旅行業者はその損害の賠償責任を負わない。
- ウ. 旅行業者は、契約の履行に当たって旅行業者の過失により旅行者の身体に損害を与えたときは、その損害の発生の翌日から起算して1年以内に旅行者から旅行業者に対して通知があったときに限り、その損害を賠償する責任を負う。
- エ. 旅行業者は、旅行業者の過失で旅行者の手荷物について生じた損害については、損害発生の翌日から起算して、国内旅行にあっては、14日以内に旅行者から旅行業者に対して通知があったときに限り、旅行者1名につき15万円（旅行業者に故意又は重大な過失がある場合を除く。）を限度として賠償する。

(12) 募集型企画旅行契約の部「旅行者の責任」に関する次の記述から、正しいものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行者の故意又は過失により旅行業者が損害を被ったときは、当該旅行者は、損害を賠償しなければならない。
- b. 旅行者は、契約を締結するに際し、旅行業者から提供された情報を活用し、旅行者の権利義務その他の契約の内容について理解するよう努めなければならない。
- c. 旅行者は、旅行開始後において、契約書面に記載された旅行サービスを円滑に受領するため、万が一契約書面と異なる旅行サービスが提供されたと認識したときは、当該旅行終了後速やかにその旨を旅行業者、手配代行者又は当該旅行サービス提供者に申し出なければならない。

ア. a, b                      イ. a, c                      ウ. b, c                      エ. a, b, c



(13) 募集型企画旅行契約の部「旅程保証」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者は、約款の定める契約内容の重要な変更が生じた場合に、変更補償金を支払わなければならないときは、旅行終了日の翌日から起算して30日以内に旅行者に支払わなければならない。
- イ. 変更補償金は、旅行者から契約内容の重要な変更があった旨の申し出を、旅行業者が旅行終了日の翌日から起算して14日以内に受けた場合に限り約款の定めるところにより支払われる。
- ウ. 旅行業者は、変更補償金を支払った後に、当該変更について旅行業者の責任が発生することが明らかになったときは、当該変更に係る変更補償金に加え損害賠償金も支払わなければならない。
- エ. 旅行業者は、支払うべき変更補償金の額が、旅行者1人に対して1旅行につき1千円であるときは支払わない。

(14) 募集型企画旅行契約の部「旅程保証」に関する次の記述のうち、変更補償金の支払いを要するものはどれか。(いずれも変更補償金の額は、約款に定める支払いが必要な最低額を上回っているものとする。)

- ア. 確定書面に利用ホテルとして記載した「Aホテル」が、Aホテルの過剰予約受け付けにより「Aホテル」と同等クラスの「Bホテル」に変更となったとき。
- イ. 確定書面に利用航空会社として記載した「A航空」が、旅行開始後、欠航となったため、「新幹線」に変更となったとき。
- ウ. 確定書面に利用レストランとして記載した「Aレストラン」が、旅行開始後、休業になったため、「Bレストラン」に変更となったとき。
- エ. 契約書面には、ツアー・タイトルに「東京タワー展望台から見る初日の出と七福神めぐり」と記載されていたが、天候が悪く初日の出が見られなかったとき。

(15) 募集型企画旅行契約の部「特別補償」及び「別紙特別補償規程」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者は、約款の規定に基づく旅行業者の責任が生ずるか否かを問わず、別紙特別補償規程で定めるところにより、旅行者が旅行参加中にその生命、身体又は手荷物の上に被った一定の損害について、あらかじめ定める額の補償金及び見舞金を支払う。
- イ. 旅行者があらかじめ定められた企画旅行の行程から、離脱及び復帰の予定日時を旅行業者に届け出て離脱する場合は、離脱の時から復帰の予定の時までの間は「企画旅行参加中」とはならない。
- ウ. 「企画旅行参加中」とは、添乗員等が受付を行わない場合においては、旅行者が企画旅行に参加する目的を持って自宅を出発した時から、最後の運送・宿泊機関等のサービスの提供を受けることを完了した時までの期間をいう。
- エ. 旅行業者は、入院見舞金を支払った後に、後遺障害補償金を支払うこととなったときは、支払うべき後遺障害補償金の金額から既に支払った入院見舞金の金額を控除した額を支払う。

(16) 募集型企画旅行契約の部「別紙特別補償規程」に関する次の記述から、補償金等の支払いの対象とならないものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. ハイキングを目的としたツアー参加中に、旅行者の不注意で転倒し1日入院した場合における入院見舞金
- b. 自由行動中に怪我をし、3日以上通院した場合における通院見舞金
- c. 行程に含まれているレストランの食事に起因する細菌性食物中毒により入院した場合における入院見舞金
- d. 盗難に遭った予備のコンタクトレンズについての損害補償金

ア. d                      イ. c, d                      ウ. b, c, d                      エ. a, b, c, d

(17) 受注型企画旅行契約の部に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 「受注型企画旅行」とは、旅行業者が、旅行者からの依頼により、旅行の目的地及び日程、旅行者が提供を受けることができる運送又は宿泊のサービスの内容並びに旅行者が旅行業者に支払うべき旅行の代金の額を定めた旅行に関する計画を作成し、これにより実施する旅行をいう。
- イ. 旅行業者は、旅行業者に契約の申込みをしようとする旅行者からの依頼があったときは、旅行業者の業務上の都合があるときを除き、当該依頼の内容に沿って作成した旅行日程、旅行サービスの内容、旅行代金その他の旅行条件に関する企画の内容を記載した書面（以下「企画書面」という。）を交付する。
- ウ. 旅行業者は、業務上の都合があるときは、契約の締結を拒否することができる。
- エ. 旅行者は、契約が締結された後は、旅行業者に対し、旅行日程、旅行サービスの内容その他の契約の内容の変更を求めることができない。

(18) 受注型企画旅行契約の部に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、企画書面において、旅行代金の内訳として企画に関する取扱料金の金額を明示することがある。
- イ. 旅行業者は、契約責任者と契約を締結する場合において、申込金の支払いを受けることなく契約の締結を承諾することがある。
- ウ. 旅行業者は、企画書面を交付していても、契約成立後速やかに、旅行者に、契約書面を交付しなければならない。
- エ. 受注型企画旅行契約においては、旅行業者は、旅程を管理する義務を負わない。

(19) 手配旅行契約の部に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア。「手配旅行契約」とは、旅行業者が旅行者の委託により、旅行者のために代理、媒介又は取次をすること等により旅行者が運送・宿泊機関等の提供する運送、宿泊その他の旅行に関するサービスの提供を受けることができるように、手配することを引き受ける契約をいう。
- イ。旅行業者が善良な管理者の注意をもって旅行サービスの手配をしたときは、手配旅行契約に基づく旅行業者の債務の履行は終了する。
- ウ。旅行業者は、国内旅行の手配旅行契約の履行に当たって、手配の一部を手配代行者に代行させることはできず、すべての手配を旅行業者自らが行う必要がある。
- エ。旅行業者は、書面による特約をもって、申込金の支払いを受けることなく、契約の締結の承諾のみにより手配旅行契約を成立させることがある。

(20) 旅行相談契約の部に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア。旅行業者が旅行業務取扱料金を収受することを約して、旅行者の委託により、旅行者が旅行の計画を作成するために必要な助言を与えることは、旅行相談契約の内容のひとつである。
- イ。旅行相談契約は、旅行業者が契約の締結を承諾し、申込金を収受した時に成立する。
- ウ。旅行業者は、旅行相談契約の履行に当たって、旅行業者が故意又は過失により旅行者に損害を与えたときは、損害発生の翌日から起算して1年以内に旅行業者に対して通知があったときに限りその損害を賠償する責に任じる。
- エ。旅行業者が作成した旅行の計画に記載した運送・宿泊機関等について、実際に手配できなかったときは、旅行相談契約に基づき、旅行業者は、旅行者に対し相談料に相当する額の違約料を支払う。

**2. 一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款における次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。**

- ア。バス会社は、旅行業者が企画旅行の実施のため、バス会社に旅客の運送を申し込む場合には、当該旅行業者を契約責任者として運送契約を締結する。
- イ。ガイド料、有料道路利用料、航送料、駐車料、乗務員の宿泊費等当該運送に関連する費用は、契約責任者が負担する。
- ウ。バス会社は、乗車券の券面に記載した配車日時に所定の配車をした場合において、出発時刻から30分を経過しても旅客が乗車についての意思表示をしないときには、当該車両について当該運送契約に係る運送の全部が終了したものとみなす。
- エ。バス会社は、バス会社の自動車の運行によって、旅客の生命又は身体を害したときは、これによって生じた損害を賠償する責に任じる。この場合において、バス会社の旅客に対する責任は、旅客が被った損害が車内において生じた場合に限られ、旅客の乗降中に生じた損害は含まれない。

**3. 海上運送法第9条第3項の規定に基づく標準運送約款（フェリーを含む一般旅客定期航路事業に関する標準運送約款）に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。**

- ア. 「小児」とは、12歳未満の者及び12歳以上の小学生をいう。
- イ. 小児で付添人のない場合は、小学校に修学していてもフェリー運送契約の申込みを拒絶することができる。
- ウ. 自動車航送券の片道券で、100キロメートル未満のものにあつては、その通用期間は、発売当日限りである。
- エ. 自動車航送を行う場合、運賃には当該自動車の運転者1名が2等船室に乗船する場合の当該運転者の運送の運賃が含まれる。

**4. 国内航空運送約款（日本航空インターナショナル・全日本空輸）に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。**

- ア. 8歳未満の小児で付添人のない場合、航空会社は搭乗を拒絶することができる。
- イ. 持込手荷物について発生した損害については、航空会社は、航空会社又はその使用人に過失があったことを証明された場合のみ賠償する。
- ウ. 航空券で予約事項に搭乗予定便が含まれないものの有効期間は、航空券の発行の日の翌日から起算して90日間である。
- エ. 手荷物運送における航空会社の責任は、手荷物1個につき総額金15万円の額を限度とする。

**5. 旅客鉄道会社（JR）の旅客営業規則に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。**

- ア. 乗車券類とは、乗車券、急行券、特別車両券、寝台券、コンパートメント券及び座席指定券をいう。
- イ. 期間の計算をする場合は、その初日は時間の長短にかかわらず、1日として計算する。
- ウ. 訪日観光団体とは、訪日観光客15人以上又はこれと同行する旅行者（ガイドを含む。）とによって構成された団体で、責任ある代表者が引率するものをいう。
- エ. 旅客が、手回り品中に危険品を収納している疑いがあるときは、その旅客の立会いを求め、手回り品の内容を点検することがある。

**6. モデル宿泊約款に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。**

- ア. 宿泊契約は、ホテルが宿泊契約の申し込みを承諾したときに成立する。ただし、当該ホテルが承諾をしなかったことを証明したときは、この限りではない。
- イ. 宿泊客がチェックアウトしたのち、宿泊客の手荷物又は携帯品がホテルに置き忘れられていた場合において、その所有者が判明しないときは、ホテルは、発見日を含め14日間保管し、その後最寄りの警察署に届ける。
- ウ. ホテルが宿泊客に客室を提供し、使用が可能になったのち、宿泊客が任意に宿泊しなかった場合においても、宿泊料金を申し受ける。
- エ. ホテルは、宿泊客に契約した客室を提供できないときは、宿泊客の了解を得て、できる限り同一の条件による他の宿泊施設をあっ旋する。

### 3 国内旅行実務

1. 「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（ラムサール条約）」の条約湿地に関する以下の設問について、 に該当する答を下記の語群からそれぞれ1つ選びなさい。

- (1) 北海道東部にある  は、日本で最も大きな湿原で、我が国第1号の条約湿地として登録された。
- (2) 宮城県北部にある  は、水生植物が繁茂する淡水湖で、ガンカモ類等の越冬地となっている。
- (3) 日本最大の淡水湖で、湖の北部に竹生島があることでも知られている  は、コハクチョウ・ヒシクイ等の重要な越冬地にもなっている。

[語 群]

- ア. 伊豆沼・内沼      イ. 猪苗代湖      ウ. 浜名湖      エ. 霧多布湿原  
オ. 釧路湿原      カ. 琵琶湖

2. 次の記述について、 に該当する観光資源を、下記の語群からそれぞれ1つ選びなさい。

- (1) 木曾川上流の景勝地である  は、花崗岩の柱状節理と清流のコントラストが美しく、浦島太郎伝説が残る場所のひとつである。
- (2) 埼玉県西部の荒川の渓谷である  は、国の名勝及び天然記念物に指定され、ライン下りと岩畳で名高い。
- (3) 西日本最高峰石鎚山南麓の渓谷である  は、石鎚国定公園における紅葉の名所である。
- (4) 北海道中央部の石狩川上流部にある大峡谷である  は、流星の滝、銀河の滝、大函、小函などの見所がある。
- (5) 和歌山・三重・奈良3県にまたがる熊野川支流の北山川の峡谷である  は、和船やウォータージェット船による船下りが有名である。

[語 群]

- ア. 面河溪      イ. 寒霞溪      ウ. 菊池溪谷      エ. 三段峡      オ. 層雲峡  
カ. 瀨峡      キ. 長瀨      ク. 鳴子峡      ケ. 寝覚ノ床      コ. 耶馬溪



3. 以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 明治時代の測量技師達の困難を極めた記録を描く新田次郎の山岳小説が、2009年に映画化され公開されているが、小説の題名にもなっている飛騨山脈屈指の峻険な山はどれか。

ア. 赤石岳                      イ. 鹿島槍ヶ岳                      ウ. 劔岳                      エ. 穂高岳

(2) わが国でも大ヒットしたアカデミー賞受賞作品「おくりびと」の主要な撮影が行われた庄内地方の中心都市で、富豪本間家の別荘を美術館として開放した本間美術館があるのはどれか。

ア. 鶴岡市                      イ. 米沢市                      ウ. 新庄市                      エ. 酒田市

(3) 世界遺産「屋久島」で、ヤクスギが集中する「大株歩道」沿いにあるヤクスギはどれか。

ア. 大王杉                      イ. 紀元杉                      ウ. 川上杉                      エ. 弥生杉

(4) 世界遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」は、二つの県にまたがって登録されているが、その二つの県の正しい組合せはどれか。

ア. 石川・岐阜                      イ. 石川・富山                      ウ. 岐阜・富山                      エ. 岐阜・福井

(5) 世界遺産「古都京都の文化財」の登録物件に入っていないものはどれか。

ア. 延暦寺                      イ. 清水寺                      ウ. 鞍馬寺                      エ. 本願寺（西本願寺）

(6) 世界遺産「古都奈良の文化財」の登録物件に入っていないものはどれか。

ア. 春日山原始林                      イ. 唐招提寺                      ウ. 薬師寺                      エ. 若草山

(7) 1993年（平成5年）に日本で初めて世界遺産に登録された4件の1つで、池田輝政が本格的な近世城郭に改修し、白漆喰で塗られた外観から「白鷺城」とも呼ばれるのはどれか。

ア. 松本城                      イ. 姫路城                      ウ. 松江城                      エ. 熊本城

(8) 平らな隆起サンゴ礁の島1周がほぼハーフマラソンの距離のため、平成4年から日本陸上競技連盟公認のフルマラソンが始められた島はどれか。

ア. 八丈島                      イ. 三宅島                      ウ. 宮古島                      エ. 与論島

(9) 山口県萩市の観光ポイントにもなっている松下村塾の主宰者であり、幕末から明治にかけて活躍した人材の育成に大きな影響を与えた長州藩の思想家・教育者は誰か。

ア. 高杉晋作            イ. 吉田松陰            ウ. 坂本龍馬            エ. 伊藤博文

(10) 中津川市にある中山道の宿場町で、島崎藤村の小説「夜明け前」の主要舞台としても知られるのはどれか。

ア. 奈良井            イ. 福島            ウ. 馬籠            エ. 上松

(11) 次の国立公園の区域内にある観光資源及び温泉地の組合せのうち、正しいものはどれか。

ア. 支笏洞爺国立公園      —— 羊蹄山      —— ニセコ温泉  
イ. 大山隠岐国立公園      —— 日御碕      —— 城崎温泉  
ウ. 十和田八幡平国立公園 —— 八甲田山 —— 乳頭温泉  
エ. 日光国立公園            —— 戦場ヶ原 —— 水上温泉

(12) 次の温泉地の組合せのうち、すべて同一都道府県にあるものはどれか。

ア. 秋保温泉      —— 作並温泉      —— 須川温泉  
イ. 浅間温泉      —— 鹿教湯温泉      —— 湯田中温泉  
ウ. 伊香保温泉 —— 草津温泉      —— 昼神温泉  
エ. 黒川温泉      —— 別府温泉      —— 由布院温泉

(13) 富士山北麓に位置する富士五湖の中で、武田信玄の隠し湯の1つと伝えられている「下部温泉」に地理的に最も近いのはどれか。

ア. 本栖湖            イ. 山中湖            ウ. 河口湖            エ. 西湖

4. 次の各行程で、前後に最も近い観光地をそれぞれ1つ選んで  を埋め、モデルコースを完成させなさい。

(1) 長崎駅 — 平和祈念像 —  — 大浦天主堂 — グラバー園 — 長崎駅

ア. 大濠公園                      イ. 水前寺公園                      ウ. くじゅう花公園                      エ. 稲佐山公園

(2) 会津若松駅 — 会津武家屋敷 — 鶴ヶ城 — 塔のへつり —  — 芦ノ牧温泉

ア. 妻籠宿                      イ. 大内宿                      ウ. 馬籠宿                      エ. 関宿

(3) 道後温泉 —  — 松山城 — 坂の上の雲ミュージアム — 松山市駅

ア. 北原白秋記念館                      イ. 壺井栄文学館                      ウ. 南方熊楠記念館                      エ. 子規記念博物館

(4) 米原駅 —  — 西明寺 — 近江八幡散策 — 大津駅

ア. 犬山城                      イ. 姫路城                      ウ. 彦根城                      エ. 二条城

(5) 定山溪温泉 — 札幌市内 — 支笏湖 —  — 洞爺湖温泉

ア. 大雪山                      イ. 昭和新山                      ウ. 渡島駒ヶ岳                      エ. 羅臼岳

**5. 以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。**

(注) 標準旅行業約款(募集型企画旅行の部)によるものとする。

- (1) 旅行代金30,000円の1泊2日の国内募集型企画旅行契約を締結していたAさんは、旅行開始日当日交通渋滞により集合時間に間に合わず、旅行開始後に旅行契約を解除した。この場合の取消料の限度額はいくらか。

ア. 0円                      イ. 9,000円                      ウ. 15,000円                      エ. 30,000円

- (2) BさんはC旅行業者が実施する2泊3日の国内募集型企画旅行に参加したが、3日目にC旅行業者があらかじめ募集して実施したオプションツアー参加中に事故で怪我をして、そのまま10日間入院した。この場合のオプションツアーに係る特別補償規程に関する次の記述について、正しいものはどれか。

ア. オプションツアーは主たる募集型企画旅行契約の内容の一部として取り扱われるので、Bさんには特別補償規程が適用される。

イ. オプションツアーは主たる募集型企画旅行契約とは別の契約として取り扱われるので、Bさんには特別補償規程が適用されない。

ウ. オプションツアーは手配旅行として取り扱われるので、Bさんには特別補償規程が適用されない。

エ. オプションツアーに参加するかどうかは旅行者の自由意志によるもので、企画旅行参加中とはみなされず、Bさんには特別補償規程が適用されない。

**6. 貸切バスによる運送に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。**

(注) 一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款によるものとする。

ア. 旅客の1人が乗車中に大量の飲酒をしたため泥酔状態になり、他の旅客に迷惑をかけている場合は、その旅客を途中下車させることができる。

イ. バス会社が収受する運賃及び料金は、乗車時において地方運輸局長に届け出て実施しているものによる。

ウ. 配車車両が10台であった契約が、配車日の10日前になって7台に減少されたときは、減少された3台について、所定運賃・料金の30%に相当する額が違約料として、バス会社は運送契約者に請求することができる。

エ. 旅行業者が手配旅行の実施のため、バス会社に旅客の運送を申し込む場合には、バス会社は当該旅行業者に手配旅行の実施を依頼した者と運送契約を結ぶ。

**7. フェリーによる運送に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。**

(注) 海上運送法第9条第3項の規定に基づく標準運送約款によるものとする。

- ア. 旅客30名、運転手を含むバスの乗務員2名、添乗員1名の計33名が乗車している大型バス1台が、フェリーの2等船室を利用する場合の運賃・料金の算出方法は、「旅客30名の運賃・料金+バスの航送料」となる。
- イ. 自動2輪車で排気量が500cc以上のものは、「自動車航送」として扱われる。
- ウ. 乗船券の通用期間は、片道400キロメートル以上のものは、発売当日を含めて7日間である。
- エ. 急行便が到着予定時刻より2時間以上遅延したときは、急行料金が払い戻される。

**8. 国内航空2社（日本航空インターナショナル・全日本空輸）による国内航空運送に関する以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。**

(注) 国内旅客運送約款によるものとする。

(1) 次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 大人旅客に同伴された座席を利用しない5歳の小児は、大人同伴者1人につき、1人に限り無賃である。
- イ. 受託手荷物その他の会社が保管を受託した旅客の物の損害に関する通知は、受け取った手荷物又は物については、その受取りの日の翌日から起算して14日以内に、文書によりしなければならない。
- ウ. 10月30日に搭乗する予定だった航空便を、旅客の都合により取消したときの航空券の払戻期間は、11月10日までである。
- エ. 手荷物及び旅客が装着する物品の価額の合計が15万円を超える場合には、旅客はその価額を申告することができる。この場合には、航空会社は従価料金として、申告価額の15万円を超える部分について、1万円毎に10円を申し受ける。



(2) 次の空港について、空港コードとして正しいものはどれか。

① 青森空港

ア. AGJ      イ. AKJ      ウ. ASJ      エ. AOJ

② 小松空港

ア. KMQ      イ. KMJ      ウ. KOJ      エ. KCZ

③ 関西国際空港

ア. KKK      イ. KJP      ウ. KIX      エ. KSA

④ 高松空港

ア. TKJ      イ. TAJ      ウ. TAK      エ. TKS

⑤ 熊本空港

ア. KMT      イ. KMJ      ウ. KMA      エ. KUM

**9. 宿泊に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。**

(注) モデル宿泊約款によるものとする。

ア. 旅館は、宿泊客が駐車場を利用するに際し、車両のキーの寄託の如何によらず車両の管理責任を負う。

イ. 基本料金が1人当たり1泊2食につき15,000円の旅館における室料相当額の計算は、「 $15,000円 \times 70\% = 10,500円$ 」となる。

ウ. 宿泊契約は、宿泊業者が宿泊の申し込みを承諾したときに成立する。

エ. 宿泊客の手荷物が、宿泊に先立って旅館に到着した場合は、その到着前に旅館が了解したときに限って責任をもって保管する。

10. 旅客鉄道会社（JR）による運送に関する以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) JR券の払いもどしに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 使用開始前で、有効期間内の乗車券類の払いもどし手数料は、乗車券1枚につき320円である。
- イ. 特急・急行列車が着駅到着時刻より2時間以上遅れたときは、当該列車の特急・急行料金から、払いもどし手数料の210円を差し引いて、払いもどしが受けられる。
- ウ. 一旦購入した普通乗車券を紛失した場合は、再度、同一区間の普通乗車券を購入する。なお、紛失した券を発見した場合、再購入した日の翌日から起算して1年以内に、紛失した券と再購入した券を駅に差し出して、所定の手数料を差し引いた金額の払いもどしを受けることができる。
- エ. 指定席特急券又は指定席急行券と一葉で発売された特急・急行列車のグリーン券を払いもどすときは、当該特急券又は急行券、グリーン券それぞれに所定の手数料が必要である。

(2) 12歳の中学生と8歳の小学生が、特急のB寝台1個を利用して旅行する場合に必要な乗車券、特急券、寝台券の組合せのうち、正しいものはどれか。

- | (乗車券)        | (特急券)     | (寝台券) |
|--------------|-----------|-------|
| ア. 大人1枚+小児1枚 | 大人1枚      | 1枚    |
| イ. 大人1枚+小児1枚 | 大人1枚+小児1枚 | 1枚    |
| ウ. 小児2枚      | 小児1枚      | 1枚    |
| エ. 小児2枚      | 小児2枚      | 1枚    |

(3) 特急料金の乗継割引に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

なお、いずれも最初の列車の乗車日当日に乗り継ぐものとし、途中下車はしないものとする。また、記載した特急料金は通常期の無割引の指定席特急料金の額とする。

ア. 城崎温泉駅  $\xrightarrow{\text{特急「はまかぜ」}}$  大阪駅  $\xrightarrow{\text{普通列車}}$  新大阪駅  $\xrightarrow{\text{新幹線「のぞみ」}}$  新横浜駅  
◇乗継割引の適用はない。

イ. 福井駅  $\xrightarrow{\text{特急「サンダーバード」}}$  新大阪駅  $\xrightarrow{\text{新幹線「のぞみ」}}$  博多駅  $\xrightarrow{\text{特急「リレーつばめ」}}$  新八代駅  $\xrightarrow{\text{新幹線「つばめ」}}$  鹿児島中央駅  
◇「サンダーバード」及び「リレーつばめ」に乗継割引が適用される。

ウ. 中津川駅  $\xrightarrow{\text{特急「ワイドビューしなの」}}$  名古屋駅  $\xrightarrow{\text{新幹線「のぞみ」}}$  東京駅  $\xrightarrow{\text{特急「しおさい」}}$  銚子駅  
特急料金1,660円 特急料金1,810円  
◇「しおさい」に乗継割引が適用される。

エ. 上野駅  $\xrightarrow{\text{新幹線「はやて」}}$  八戸駅  $\xrightarrow{\text{特急「スーパー白鳥」}}$  函館駅  $\xrightarrow{\text{特急「北斗」}}$  札幌駅  
◇「スーパー白鳥」及び「北斗」に乗継割引が適用される。

(4) 高校生120人、教職員5人、旅行者(添乗員)1人の学生団体が次の行程を旅行する場合、当該行程及び資料に基づき、団体乗車券を一葉で発売するときの団体旅客運賃の算出方法で、正しいものはどれか。

〈行程〉



〈資料〉

大人1人普通旅客運賃(片道)	東京駅 ~ 湯河原駅	1,620円
	小田原駅 ~ 東京駅	1,450円

ア.  $(1,620 + 1,450) \times (1 - 0.5) = 1,535 \rightarrow 1,530$ 円 ----- ①  
 ①  $\times 120 = 183,600$ 円 ----- ②  
 ①  $\times 6 = 9,180$ 円 ----- ③  
(② + ③) 合計 188,190円

イ.  $(1,620 + 1,450) \times (1 - 0.5) = 1,535 \rightarrow 1,530$ 円 ----- ①  
 ①  $\times 120 = 183,600$ 円 ----- ②  
 $(1,620 + 1,450) \times (1 - 0.15) = 2,609.5 \rightarrow 2,600$ 円 ----- ③  
 ③  $\times 6 = 15,600$ 円 ----- ④  
(② + ④) 合計 199,200円

ウ.  $(1,620 + 1,450) \times (1 - 0.5) = 1,535 \rightarrow 1,530$ 円 ----- ①  
 ①  $\times 120 = 183,600$ 円 ----- ②  
 $(1,620 + 1,450) \times (1 - 0.3) = 2,149 \rightarrow 2,140$ 円 ----- ③  
 ③  $\times 6 = 12,840$ 円 ----- ④  
(② + ④) 合計 196,440円

エ.  $(1,620 + 1,450) \times (1 - 0.5) = 1,535 \rightarrow 1,530$ 円 ----- ①  
 ①  $\times 120 = 183,600$ 円 ----- ②  
 $1,620 \times (1 - 0.15) = 1,377 \rightarrow 1,370$ 円 ----- ③  
 $1,450 \times (1 - 0.1) = 1,305 \rightarrow 1,300$ 円 ----- ④  
 (③ + ④)  $\times 6 = 16,020$ 円 ----- ⑤  
(② + ⑤) 合計 199,620円

(5) 繁忙期に大人1人、小児1人が東京駅～出雲市駅間を「サンライズ出雲」2人用個室（サンライズツイン）1室を利用して旅行する場合、当該資料に基づき、料金の算出方法で、正しいものはどれか。

〈資料〉

普通車の大人指定席特急料金（通常期）	3,660円
2人用B寝台個室料金	14,700円

ア. 大人特急料金  $3,660 - 510 = 3,150$ 円 ----- ①  
 小児特急料金  $(3,660 \div 2) - 510 = 1,320$ 円 ----- ②  
 2人用B寝台個室料金 14,700円 ----- ③  
 (①+②+③) 合計 19,170円

イ. 大人特急料金 3,660円 ----- ①  
 小児特急料金  $3,660 \div 2 = 1,830$ 円 ----- ②  
 2人用B寝台個室料金 14,700円 ----- ③  
 (①+②+③) 合計 20,190円

ウ. 大人特急料金  $3,660 - 510 = 3,150$ 円 ----- ①  
 小児特急料金  $3,660 - 510 = 3,150$ 円 ----- ②  
 2人用B寝台個室料金 14,700円 ----- ③  
 (①+②+③) 合計 21,000円

エ. 大人特急料金  $3,660 + 200 - 510 = 3,350$ 円 ----- ①  
 小児特急料金  $3,660 + 200 - 510 = 3,350$ 円 ----- ②  
 2人用B寝台個室料金 14,700円 ----- ③  
 (①+②+③) 合計 21,400円

〈以上〉